



泗水小だより



泗水小学校
学校だより No34
文責 芹川博文
1月19日(金)

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」

「日課の変更」(15分早く下校)について ～ 児童が主体的に参画し、共に作り上げる学校を目指して～

「学校生活を自分たちも考える」という視点で、「昼休みの長さ(45分と30分はどちらがよいか)」について議論を重ねてきました。代表委員会(写真左)を経て、泗水小サミット(写真右)でプレゼンをしました。単に多数決で決めず、少数意見の「45分がいい」という理由に対して打開案も考えました。例えば「たくさん遊びたい」の打開案としては「あらかじめ遊びを決めておく」「図書室やタブレット学習をゆっくりしたい」の打開案としては「2時間目後の15分休みでもできる」などでした。



代表委員会での話し合い

泗水小サミットでのプレゼン

職員間や学校運営協議会でも検討を重ねて、先日の通知(右の変更内容)に至りました。放課後の時間を上手に活用することで、持続可能な学校生活につなげたいと考えます。

2月5日から実施する予定です。保護者の皆様からのご意見やご感想もお聞かせください。ご理解とご協力をお願いいたします。

主な変更点

- 昼休み時間 45分間 → 30分間
 - 下校時刻(15分早くなります)
 - 5時間授業の日: 午後2時50分
 - 6時間授業の日: 午後3時45分
- ※詳しくは、各学年の時間割でご確認ください。
※2月5日(月)から変更します。

「もったいない」が「ありがとう」に ～フードドライブ物資の受け渡し式から～

「もったいない」という言葉と意味は、日本が誇る文化だと聞いたことがあります。単に物質的な物の価値だけでなく、その物に関わる人の思いを感じ、感謝の気持ちを含めるからかもしれません。

泗水小学校ではフードドライブに取り組んでいます。今年度は校内だけでなく、養生市場、JA 泗水、菊池市役所泗水支所にもお願いして校外にも広げて取り組みました。

右の写真は、地域学校協働活動推進員の茶木谷様に、集まった物資を託している時の様子です。その後、茶木谷様から連絡があり、全部で約600点、約150kgだったとのこと。それらは、熊本県内の必要とされている方のもとへ届けられる予定とのことでした。

茶木谷様が言われた、「皆さんの活動で、『もったいない』が『ありがとう』に変わります」の言葉が心に残りました。物資を受け取られる方の「ありがとう」の言葉と笑顔が思い浮かびます。ご協力いただいた保護者や地域の皆様、ありがとうございました。(※委員会では能登半島の方への支援も計画中とのことでした。)



「そうじの達人」に感動 ～美しい所作には、無駄がない～

「学校生活の中で50年以上変わらないもの」の一つに、「掃除の仕方」が上げられるかもしれません。家庭では掃除機(最先端ではロボット掃除機)やフローリングワイパーが主流になる中、学校は今でも、「ほうき」と「そうきん」

です。中には、単にほうきを左右に動かしているだけの姿や、そうきんを上手く絞れない児童も見受けられ、声をかけることもあります。

そんな中、目を見張るほどの「達人」を発見しました。靴箱の泥よけマットを素早く上げて砂を掃き出す姿、チリ取りを少しずつずらしながら集める姿と連携が見事でした。

以前ラジオで流れていた話を思い出します。歌舞伎が能の役者の方が、「舞台の動きは、日常生活の所作からつくられる。美しい動きには無駄がなく、洗練されている。椅子に座る時や立つ時の動き、スリッパを並べる時の動きは、舞台での姿に通じる」という内容でした。

家では使わないかもしれない「ほうき」や「そうきん」ですが、どうしたら上手に使えるか、きれいになるかを考え、追求していくことで洗練されていきます。掃除の姿一つにも、そこにある奥深さと可能性を感じた時間でした。

